

第1学年 図画工作科学習指導案

令和元年11月13日(水) 5校時

四万十市立東山小学校 1年2組 25名

場所 1-2教室

指導者 博田 れな

1 題材名 「ごちそう パーティーを はじめよう！」

2 題材のねらい

本題材は、学習指導要領第1学年および第2学年の内容A表現(1)「ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。」と同じく表現(1)の「イ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。」に関わる題材である。

子どもたちは、小学校入学以前から粘土を使った遊びを経験しており、粘土が大好きな児童も多い。手や指を使って自分の考えたものをつくったり、友だちにつくり方を教えてもらったりして、楽しみながら学習に取り組んできた。本題材はパーティーを開くという活動であることから、自分の好きな料理や、デザートだけでなく、食べてみたい料理などもどんどん思い描き表現させていく。

3 題材の指導構想

(1) 題材について

本題材は、粘土を用いて実際にある料理やデザートを想像しながら自分らしく表現するものである。ごちそうパーティーということから、自分の好きな料理やデザート、また今までは見たことはあるだけで食べてみたい食べ物などを、自由に想像しつくることができる。また、お皿やピック、ゼリーカップなどを用意することで、イメージをさらに膨らますことができる。そして、教室をパーティー会場のように見立ててテーブルクロスをしき、お箸やスプーン、フォークを用意し、友だちのごちそうを見て、何をつくったのかを想像してさらに楽しむことができる教材となっている。制作後は、作品について友だちと話し合い、つくる喜びや友だちの工夫について伝え合いたい。

(2) 児童について

本学級の児童は、図画工作の時間を楽しみにしており、思い思いに表現することに喜びを感じている。パスを用いて色をぬる際には、それぞれの色を考えてぬったり、混色をして、色の変化を楽しんだりしながらぬることもできていた。1学期の粘土を使った「いっしょに おさんぽ」の学習では、自分と散歩したい誰かを想像し、楽しんで表現していた。児童は、恐竜や小動物を表現する際に、粘土を丸めたり細長くしたり、手をつまんだりしながら、目や鼻などの細かい部分を表現することができた。細かい部分でも丁寧に作り、自分なりの表現ができている児童もいた。一方で、自分の思いを上手く表現できず、悩んでしまう児童もいる。そこで、どんなものをつくりたいかをあらかじめ考えておき、粘土での表現方法を事前に学習しておく必要があると考える。



「いっしょに おさんぽ」の児童の作品

(3) 指導について

指導においては、まず、であいの段階で自分にとってのごちそうをイメージさせていく。その際には、ビュッフェの写真を掲示したり、教科書を見せたりしながら想像を膨らませていく。そして、ワークシートには完成図を描き、どのように粘土で表現していくかを考えるようにしていく。完成図を仕上げることで、自分なりの表現が難しい児童もひろがりの段階で表現できるようになると思われる。この段階でのワークシートの完成図は、予想図であり、ひろがりの段階で変更することも可能であることも伝える。さらに、次の時間への意欲を高めさせるために、盛り付け用の紙皿にパスでデコレーションをしていく。デコレーションをすることで、つくった皿にどんなものを盛り付けさせるか想像を膨らませることに役立つであろう。

次の本時にあたるひろがり・ふりかえりの段階では、前時のワークシートをもとに、粘土でのごちそうをつくっていく。テーブルには、ピックやお箸、フォークなどを用意し、意欲をもたせる。粘土でつくる際には、友だちとごちそうについて話をしたり、近くの子だちのごちそうを見たりしながら、表現方法を膨らませるようにさせる。また、数名の児童の表現の良さを伝え、終末で行う表現の良さを見つける視点も与えていく。時間内につくり上げることができない児童も予想されるため、タイマーで時間を見ながらつくるようにさせる。早く出来上がった児童は、盛り付け方を考えより美味しそうに見える盛り付け方を工夫させる。

この学習で、つくりたい食べ物の形を思い浮かべ、丸めたり、つまみ出したりして、工夫して表現することで、つくりたいものをどんどんつくっていくことの楽しさを見出し、活動の中で友だちの表現の良さや面白さに気付ける児童の育成を目指したい。

4 題材の目標と評価規準

(1) 目標

- ・「ごちそうパーティー」にあつたらいい食べ物を想像することができる。
- ・粘土を丸めたり、つまみ出したりして、工夫して表現することができる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技術	鑑賞の能力
・粘土で「ごちそう」をつくることを楽しもうとしている。	・つくりたい食べ物の形を思い浮かべたり、つくり方を考えたりしている。	・丸めたり、つまみ出したり、手や指を使って表し方を工夫している。	・友だちと話しながら、おいしそうな「ごちそう」を選んだり、形の面白さや楽しさを感じたりしている。

(3) 指導と評価の計画 (全2時間)

段階	ねらい	○主な学習活動・内容	材料・用具	評価基準
であい	・つくりたいものを想像し、どのようにするか考えながら、活動への見通しをもつ。	○活動への見通しを持つ。 ・盛り付け皿をつくる。 ・ビュッフェの写真や教科書を参考に、つくりたいものをイメージする。 ・友だちと話しながら、表現方法を考える。	・紙皿 ・ワークシート	・粘土で「ごちそう」をつくることを楽しもうとしている。 【関心・意欲・態度】 ・つくりたい食べ物の形を思い浮かべたり、つくり方を考えたりしている。 【発想や構想の能力】
ひろがり・ふりかえり 本時	・粘土を丸めたりつまんだりして工夫しながらごちそうをつくり、友だちの表現の良さや面白さを見つけることができる。	○粘土を使って、ごちそうをつくりあげる。 ・つまんだり、丸めたり、のばしたりしながら、前時で考えたごちそうをつくる。 ○ごちそうを見合い、友だちの表現の良さや面白さを見つける。 ・お互いの作品を見合いながら、表現の良さや面白さを見つけ、伝え合う。	・ワークシート ・盛り付け用紙皿 ・粘土、粘土板 ・ピック ・紙コップ ・フォーク ・お箸 ・スプーン	・丸めたり、つまみ出したり、手や指を使って表し方を工夫している。 【創造的な技術】 ・友だちと話しながら、おいしそうな「ごちそう」を選んだり、形の面白さや楽しさを感じたりしている。 【鑑賞の能力】

5 本時の指導

(1) 目標

- ・粘土を丸めたりつまんだりして工夫しながらごちそうをつくり、友だちの表現の良さや面白さを見つけることができる。

(2) 評価規準

- ・丸めたり、つまみ出したり、手や指を使って表し方を工夫している。【創造的な技術】
- ・友だちと話しながら、おいしそうな「ごちそう」を見つけたり、形の面白さや楽しさを感じたりしている。【鑑賞の能力】

(3) 準備物

- ・ワークシート（前時、本時）、盛り付け用紙皿、粘土、粘土板、ピック、ゼリーカップ、フォーク、お箸、スプーン

(4) 展開 (2/2)

過程	学習活動	○指導上の留意点・評価
導入 (3分)	1. 前時に仕上げたワークシートを見返し、活動への意欲をもつ。	○中心のテーブルに、ピックやフォークなどの準備物を置き、いつでも使ってよいことを伝える。 ○ピックの先は尖っているため、取り扱いに注意することを伝える。
展開 (28分)	めあて まるめたり、のぼしたり、つまんだりしながら、じぶんのごちそうをつくろう。 2. ごちそうを表現する。 ・ごちそうをつくる。 ・できあがったごちそうを盛り付け皿に盛り付ける。	○何名かの児童の良さを伝え、終末で行う表現の良さを見つける視点を与える。 ・丸めたり、つまみ出したり、手や指を使って表し方を工夫している。【創造的な技術】 ○友だちとごちそうについて話をしたり、近くの友だちのごちそうを見たりしながら、表現方法を膨らませるようにさせる。 ○一人一人の思いを引き出しながら、それぞれの表現を大切に助言や支援をしていく。 ○時間内につくり上げることを意識させるため、タイマーを見ながら作るようにさせる。 ○早くできた児童は、盛り付け方を考えより美味しそうに見える盛り付け方を工夫させたり、ごちそうの名前を考えるようにさせたりする。 ○支援が必要な児童には、友だちの表現の仕方を参考にして、つくるように声掛けをする。

<p>終末 (14分)</p>	<p>3. 友だちのつくったごちそうを見合う。 ・友だちのつくったごちそうを見て、表現の良さや、面白さ、何をつくったかななどを話し合う。 ・ペアで、友だちの良かったところを伝え合う。</p>	<p>○テーブルの上に集めた友だちのごちそうを見て、何をつくったのかを想像させ、友だちの表現の良さや面白さを見つけさせる。 ・友だちと話しながら、おいしそうな「ごちそう」を見つけたり、形の面白さや楽しさを感じたりしている。【鑑賞の能力】</p>
---------------------	---	---

(5) 板書計画

めあて

まるめたり、のぼしたり、つまんだりしながら、じぶんのごちそうをつくろう。

- ・まるめる
- ・きる
- ・のぼす
- ・ほそながくする
- ・ゆびの先をつかう

ビュッフェ

ビュッフェ